

**令和元年度 第1回 吹田市まち・ひと・しごと創生推進委員会
議事概要**

日時 令和元年（2019年）5月31日（金）午前10時～午前10時40分

場所 吹田市役所 高層棟4階 特別会議室

出席委員 春藤副市長（委員長）、辰谷副市長（副委員長）、清水危機管理監、小西総務部長、
稲田行政経営部長、中川理事、小林税務部長、高田市民部長、横山人権政策長、
井田都市魅力部長、伊藤理事、原山理事、中野児童部長、後藤福祉部長、
山下健康医療部長、舟津健康医療審議監、中嶋環境部長、乾都市計画部長、松本土木部長、
竹嶋下水道部長、村上消防長、岡本水道部長、橋本学校教育部長、木戸地域教育部長

欠席委員 大江教育監

事務局職員（企画財政室） 今峰室長、吉川参事、東主幹、青柳主査

- 案件** 1 評価（検証）方法について
2 評価結果について
3 その他

主な質問、意見等の内容

【案件1、2について】

○副委員長 K P Iについては、努力して取り組んでいるけれども、目標の設定が高く、数値が近づかないものもあるかもしれない。そういう意味では、現状の評価はK P Iに捉われ過ぎていると思うので、もっと取組状況にも目を向けて議論してもらいたい。

○委員 参考資料1の4ページ、子育てしやすい環境の整備、③保育の量的拡大・確保について、K P Iが達成されていないため、評価がBに下がっているが、待機児童数は年々減少しており、取組は前進していると思う。平成29年度もK P Iは達成されていないがA評価だったので、評価が下がるのは少し違和感がある。

○委員 平成29年度の評価については、平成30年度中に待機児童が解消される見込みだったのでA評価にした。待機児童数はK P Iの策定時点から毎年度着実に減少しており、取組は進んでいるので、A評価にしていいいのかもしれない。

○委員 待機児童が解消できなかった理由は、自然災害等の影響により、予定していた認可保育所の開所が遅れたからであり、やむを得ない面がある。待機児童数が着実に減少していることを踏まえると、A評価でいいのではないか。

○事務局 その点については、所管部局と調整させていただく。

○委員長 評価については、目標そのものがあまりにも過大だと良くないが、大きな目標を設定したならば、その難易度を踏まえて、第三者が見て目標に向かって十分に努力したのかという観点を重視して評価すればいいと思う。それでも評価が良くないのであれば、部局を超えて協力し、解決方法を検討するなど、この推進委員会で発展的な議論をする必要がある。

【案件3について】

○事務局 第2期の総合戦略について、国のスケジュールとしては、本年6月頃に基本方針が示され、12月頃に第2期総合戦略が策定される予定と聞いている。自治体についても、第1期に引き続き切れ目なく取り組むよう求められている。

本市における第2期の総合戦略については、非常にタイトなスケジュールになるが、国の方針や他市の状況等を踏まえ、5年間の検証も行いながら、策定手法や成果物についてのイメージを検討する予定である。

○委員長 本年4月から第4次総合計画がスタートしており、それと違う動きをすべきではないと思う。総合計画で立てた目標を、「まち・ひと・しごと」の視点で整理、集約し、総合計画を進捗管理することで、総合戦略の進捗管理を行えるよう効果的・効率的に取り組むたいと考えているので、今後も協力をお願いする。